

〔第一号議案〕

— 平成 26 年度事業方針について —

東日本大震災から3年が過ぎましたが、南三陸、石巻などの沿岸地区では、いまだに仮設診療所・臨床検査室での検査業務を余儀なくされながらも懸命に努力されている会員の皆様に敬意を表し、今後も必要な復興支援活動やDVT検診などを継続していきたいと考えております。

平成26年度事業として、昨年は日臨技北日本支部学会を当県担当で開催したためお休みしておりましたみやぎ医学検査学会を6月15日（日）に東北ブロック赤十字血液センターにおいて佐藤副会長を学会長として開催する予定です。また、従来から行ってきました学術部研修会、部門別研修会、精度管理事業、会誌の発行などを継続し、新たに日臨技が全国的に展開している検査説明・相談のできる技師育成のための研修会および日臨技北日本支部研修会（生物化学分析部門研修会、総合管理部門研修会）も積極的に開催していきたいと考えています。

公益事業としては、従来から行ってきましたHIV支援事業として県内保健所におけるHIV迅速検査会への協力、県内自治体や関連団体主催の健康イベント等への共催を行ってきたいと考えています。

当会は、従来と同様に日本臨床衛生検査技師会／北日本支部や東北地区臨床検査技師会そして宮城県医療整備課、県内の医療関連団体との緊密な連携のもと、会員や臨床検査に対する学術および職能団体としての役割はもとより地域医療や県民の健康維持・公衆衛生活動等への貢献を実施していきたい。

【平成 26 年度事業計画案について】

1. 学術活動

臨床検査に関する技術向上と医療知識の習得のための活動を行っていく。

- 1) 宮城県臨床検査技師会誌の発刊
- 2) 検査研究部門体制を維持しつつ、検査研究班体制の確立と活発な活動
- 3) 精度管理事業（サーベイランス、データ標準化、日臨技施設認証）の推進と普及
- 4) 日臨技北日本支部生物化学分析部門研修会、臨床検査総合部門研修会の企画運営。
- 5) 検査説明・相談のできる技師育成のための研修会の企画、運営。
- 6) みやぎ医学検査学会の開催

2. 公益事業

- 1) 県民を対象とした健康や感染症対策等に関する公開講演会の開催
- 2) HIV支援事業として県内保健所におけるHIV迅速検査会への協力
- 3) 県内自治体や関連団体主催の健康イベント等への共催

3. その他

- 1) ホームページの内容の充実、更新作業の迅速化

- 2) 日臨技北日本支部、および他県技師会や関連団体との交流
- 3) 地域内の連携と連絡網の強化

【総務部門】

1. 総務・法規・組織

- 1) 会務の執行体制としては、基本的に現在の7部門（学術部、精度管理部、広報部、総務部、会計部、公益事業推進部、事務局）で行う。
- 2) 一般社団法人宮城県臨床検査技師会としての公益目的実施事業の遂行と更なる規定の見直しに取り組みたい。
- 3) 県内施設・会員との速やかな対応を行うための連絡網の整備。
- 4) 役員変更に係る手続きの速やかな遂行に努めたい。

【表彰委員会】

1. 各種表彰

- 1) 青木賞
第46回みやぎ医学検査学会において発表された業績に対し、表彰規程により選考し平成26年度後期総会にて表彰したい。
- 2) その他
また日臨技を含む各種団体からの推薦依頼に対しそれぞれの推薦要領に従い推薦に努めたい。

【事務局】

1. 事務局運営について

- 1) 学術部門との協力体制をよりいっそう構築し、会員にとって有益な研修会等を多数企画し、宮臨技会員の学術レベルのさらなる向上を計りたい。
- 2) 宮城県臨床検査協議会、災害メーリングリスト等、震災復興における宮臨技の取り組みとして、各施設・各団体との連携を図り、災害時の検査技師の役割等について協議し、情報共有を計りたい。

2. 生涯教育研修事業

現在、作業の電子化に伴い、参加登録が現場で容易に行われており、生涯教育担当者の手間が少なくなっている。ただ、事後登録せざるを得ない場合もあるが、年度を越えての申請は、期限を超えると登録出来ない場合がある為、提出は速やかにお願いしたい。また宮臨技共催による研修会は、すべて現場で登録できないため、基本的に、会員の自己申請をお願いしたい。

3. 平成26年度の各種会議開催

- 1) 定期総会
平成26年度 定時総会 2回

- 平成 26 年度 臨時総会 必要に応じて
- 2) 理事会
年 6 回開催予定（原則として隔月）
 - 3) その他 三役会議
年 1、2 回予定（必要に応じて）

【学術部門】

1. みやぎ医学検査学会

第 46 回みやぎ医学検査学会は佐藤誠会員（仙台赤十字病院）を学会長とし、平成 26 年 6 月 15 日（日）東北ブロック赤十字血液センターにて開催する。

2. 日本臨床衛生検査技師会北日本支部生物化学分析部門研修会・臨床検査総合部門研修会の開催

日臨技北日本支部生物化学分析部門研修会と総合管理部門研修会は宮城県臨床検査技師会が担当県となり、仙台市で開催予定。その企画、準備、運営を行う。

3. 研修会・講習会等

- 1) 昨年度同様、会員のニーズに対応するテーマを選び、研修会、講習会の企画、準備、運営を行う。
- 2) 仙台市以外の、県南地区、栗原・大崎地区、登米・石巻地区での研修会を開催する。気仙沼地区は岩手県臨床検査技師会と連携し開催する。
- 3) 基礎課程の研修会を年 2 回～3 回開催予定。
- 4) 部門単独の研修会のみならず、複数部門の連携による合同研修会の開催。
- 5) 検査説明・相談ができる技師育成のための研修会を開催予定。

4. 学術部門（検査研究部門体制）について

平成 26 年度も 25 年度と同様に会員に有益な学術的情報を発信するために、部門内活動の充実と関連部門との連携をより一層強化したい。

- 1) 広報部門との連携を強化し、学術誌の編集、発行への協力、ホームページの学術内容の充実を図っていく。
- 2) 精度管理事業への支援体制の推進。
- 3) 公益事業部との連携による、ボランティア活動への協力。

【精度管理部門】

1. 精度管理委員会

平成 24 年度から宮臨技精度管理調査は「日臨技精度管理事業データ標準化システム JAMTQC」の運用を開始した。三年目となる平成 26 年度もこの Web システムを使用継続して精度管理調査を実施したい。

- 1) 実施項目は昨年同様、日臨技精度保証施設認証制度対象項目を全て満たしたい。
- 2) 実施日程は下記のように行なうこととしたい。

7月：案内郵送後に、Web参加申し込み開始

10月：試料および要綱（設問）発送

11月：模範解答のホームページ公開、施設別報告書（Web）の解禁

12月：宮城県管轄登録衛生検査所に対する最終報告書を宮城県に送付

2月：全体報告書の発行、送付

3月：精度管理調査報告会（又は精度管理研修会）の開催

2. データ標準化委員会

「日臨技精度管理事業データ標準化システム JAMTQC」の運用を開始した。このシステムを使用した解析方法、評価方法の宮城県の適合性について常に再検討を行ないながら運用したい。設問の難易度についても、学術部と常に検討したい。宮城県の精度保証施設認証パイロット施設を中心とした「パッチワークシステム」が機能する様、精度管理委員会、学術部とパイロット施設担当者との連携を図ってゆきたい。この Web システムに内部精度管理データを入力するメリットについても（日臨技精度保証部役員を招くなどして）研修会を企画し明確にしていくなど、精度保証に対する会員認識を高め、施設認証を受けるメリットについても再考してもらい、新規申請する施設を増やしていきたい。

3. 精度保証施設認証委員会

平成 23 年度から宮臨技精度管理調査の項目数は、精度保証施設認証制度の基準を満たしたので、「一般施設認証」を行うことが可能となった。

自施設の精度保証、データの信頼性の裏付けともなるので、さらに多くの施設に認証申請を PR したい。

【公益事業推進部門】

1. 関連団体支援事業

- 1) HIV 支援事業として参画している年 2 回の県内 7 保健所及び仙台市青葉区保健福祉センターでの HIV 迅速検査会への協力を行いたい。
- 2) 自治体や関連団体主催の健康イベントに共催参加して来たが、本年度も積極的に参加していきたい。

【広報部門】

1. 会誌発行事業

「ニュースみやぎ」では、総会、理事会、技師会活動等の情報提供を目的とし、年 2 回の定期的な発行を行ないたい。「宮城県臨床検査技師会誌」（学術誌）では学術部と協力して年 1 回の発行を目指していきたい。

2. ホームページ維持・更新

更新作業は業者に委託することにより迅速に行い、ホームページの内容を充実させることで会員への情報提供を行っていききたい。

【会計部門】

1. 会員管理

未登録の方や企業への呼びかけを行い、正会員および賛助会員の増加を図りたい。

2. 会計処理

平成 26 年度実施予定業務の内容

会費収入と事業支出のバランスの適正化を図り、長期的に安定した法人経営になるよう会計として努力していききたい。